

## 半日でEV24台充電、従来の2倍 北海道電気相互が専用車

2022/10/19 18:46 | 日本経済新聞 電子版



トラックに発電機と充電器を搭載した

電気設備工事の北海道電気相互（札幌市）は12月、電気自動車（EV）の充電車両を発売する。軽油で発電しながら充電でき、蓄電池が不要になった。高橋伸和社長によると「蓄電池を積む同業他社の車両に比べ2倍の台数」で、8割まで充電する場合、半日で24台に対応。不足するEV充電の需要を取り込む。

新車両の販売価格は数千万円で、充電器出力90キロワットと150キロワットの2種類を用意する。普通免許で運転可能なトラックに発電機と充電器

を搭載した。バッテリー残量が5割から8割まで充電する場合、[日産自動車](#)のEV「リーフ」では15分、より大型のEVでも30分以内ができる。

車両の主要顧客として、EVを扱う道内ディーラーなどを念頭に置く。輸入車販売を手がける北海道ブブ（札幌市）には前倒しで3台を納入した。イベント会場やショッピングセンターの駐車場への出張や出先での電池切れなどの需要を見込み、札幌圏で貸し出し・駆けつけサービスも始める。

北海道ブブの道内外の車販売店に順次設置する計画もあり、年間10台ほどの販売を見込む。サービス普及も進め、1年間で会社全体の売上高の6割にあたる10億円規模の事業にする。

北海道は面積で全国の22%を占める。充電設備は2021年度時点で1197力所と東京（3918力所）に比べると多くない。北海道電気相互の新車両や新サービスが道内のEV普及の一助になる可能性もある。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

NIKKEI Nikkei Inc. No reproduction without permission.